シラバス参照

タイトル「**2023年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**（共通）**」
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

科目ナンバー	RMGT/SSCS1754		
科目名	中国語Ⅳ		
担当教員	日吉　秀松		
対象学年	3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	月５		
講義室	1201	単位区分	選
授業形態	演習	単位数	1
科目大分類	総合教育		
科目中分類	総合基礎		
科目小分類	語学		
科目の位置付け（開発能力）	■ＤＰコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP6-K〔表現力・対話力〕文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 A日本の精神文化を理解し、多様な価値を受容する姿勢 D文化的素養・市民的素養 I理解力・分析力 ■ＣＲコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（ＣＲ）との関連 A2異文化適応（20%） D1市民的素養と参加（20%） I1理解・分析と読解（10%） K1ライティング・コミュニケーション（25%） K2オラール・コミュニケーション（25%）		
教員の実務経験			
成績ターゲット区分	■ 能力開発の目標ステージとの対応　2進行期~3発展期		
科目概要・キーワード	中級レベルの中国語の語彙・文法項目を含む中国語の能力を養成し、文章の作りや会話能力の向上を目指ます。授業形態は講義形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果 的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授 業を一部取り入れる場合があります。 (キーワード）我家、図書館、我、你、他 授業形態は講義形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライ		

	ン授業を一部取り入れる場合があります。
授業の趣旨	■副題 友達を作ろう ■授業の目的 本講義では、練習などを通じて、会話力や表現力を身につけ、文化的に異なる人々との交流を自発的に行わせることです。具体的には、頻度の高い語彙・表現をもちいて、中級的会話・中級的文法・文章作りなどを習得することを目指します。 ■授業のポイント グローバリゼーションにともない、異文化と出合う機会が増えつつあり、さまざまな言語使用の必要性が高まっています。その中に、中国語によってのコミュニケーション、文書作成、電話応対、接客などが求められるケースが急増しています。特に中国語の会話力や表現力が必要となります。本講義をその現状を踏まえて、中国語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを習得したうえで、中級の文法を中心に文章の作りや会話練習を行い、2020年の東京オリンピックや国際化社会での活躍できるような能力を育てます。
総合到達目標	■中国語の文法や表現などの勉強を通じ、頻出度の高い単語をマスターし、日常的なコミュニケーション能力や文章作りの力を身につけます。 ・反復練習を通じて、短い文章を作ることができる。（第１回~第15回） ・反復練習を通じて、日常会話をスムーズに話すことができる。（第1回~第15回） ・文法や語彙を強化し、中国語の検定試験に合格できる能力を身に付ける。（第1回~第15回）
成績評価方法	①会話の練習（60%）適用ルーブリック A2 I1 K1 D1 (評価の観点)授業内容の理解度を総合的に確認し、日常会話の能力をある程度身につけているかどうかを評価します。 (フィートバックの方法)会話のポイントをチェックし、コミュニケーションの力を確認します。 ②作文４回（40%）適用ルーブリック A2 I1 K2 (評価の観点］途中チェックという目的で、作文づくりを中心に学習者の習得状況を確認します。 (フィートバックの方法) 作文をチェックし、問題点を説明したうえで、会話練習によって正答を確認します。
履修条件	中国語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを履修していることが望ましい。
履修上の注意点	
授業内容	

回	内容
1	①授業テーマ ガイダンス(全体テーマ、授業の方法、成績評価の方法等の説明) ②授業概要 授業テーマや内容、スケジュール、成績評価の方法について説明を行う。A2・D1・I1・K１・K２ ③予習(120分) 中国語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの内容を再確認する。 ④復習（120分) 授業を振り返り、授業の目的と到達目標を確認する。
2	①授業テーマ 我是学生 ②授業概要 「是」の文：①A是B②A不是B③A是B吗?に関する説明およびセンテンス作りの練習を行う。A2・D1・I1・K１・K２ ③予習（120分) 事前に配布したpdf教材を読んでおく。 ④復習（120分) 授業を振り返り、講義ノートを整理し、暗記する。
3	①授業テーマ 我家有５口人

	②授業概要 動詞「有」の文：①存在を表す「有」と②所有を表す「有」に関する説明およびセンテンス作りの練習を行う。A2・D1・I1・K１・K２ ③予習（120分） 事前に配布したpdf教材を読んでおく。 ④復習（120分） 授業を振り返り、講義ノートを整理し、暗記する。
4	①授業テーマ 他在图书馆 ②授業概要 動詞「在」の文：存在物・人＋「在」（「不在」）＋存在の場所」に関する説明およびセンテンス作りの練習を行う。A2・D1・I1・K１・K２ ③予習（120分） 事前に配布したpdf教材を読んでおく。 ④復習（120分） 授業を振り返り、講義ノートを整理し、暗記する。
5	①授業テーマ 公园里人很多 ②授業概要 形容詞の前に程度を表す副詞「很」「更」「还」などに関する説明およびセンテンスの練習を行う。A2・D1・I1・K１・K２ ③予習（120分） 事前に配布したpdf教材を読んでおく。 ④復習（120分） 授業を振り返り、講義ノートを整理し、暗記する。
6	①授業テーマ 我去买面包 ②授業概要 「来」／「去」＋動詞＋（名詞）に関する説明およびセンテンスの練習を行い、第一回目の小テストを実施する。A2・D1・I1・K１・K２ ③予習（120分） 1回目から5回目までの授業内容をよく通読し、配布したpdf教材を読んでおく。 ④復習（120分） 授業を振り返り、講義ノートを整理し、暗記する。
7	①授業テーマ 你喝水吗？ ②授業概要 「吗」「呢」「吧」という三つの疑問語気詞の使い方に関する説明およびセンテンス作りの練習を行う。A2・D1・I1・K１・K２ ③予習（120分） 事前に配布したpdf教材を読んでおく。 ④復習（120分） 授業を振り返り、講義ノートを整理し、暗記する。
8	①授業テーマ 前半の振り返り ②授業概要 今までの授業内容を総括し、センテンス作りや会話の練習を行う。A2・D1・I1・K１・K２

	③予習（120分） 事前に配布したpdf教材を読んでおく。 ④復習（120分） 授業を振り返り、講義ノートを整理し、暗記する。
9	①授業テーマ 那位是谁？ ②授業概要 「谁」「什么」「哪」「怎么,怎样」「怎么样」「哪儿，哪里」などに関する説明およびセンテンス作りの練習を行う。A2・D1・I1・K１・K２ ③予習（120分） 事前に配布したpdf教材を読んでおく。 ④復習（120分） 授業を振り返り、講義ノートを整理し、暗記する。。
10	①授業テーマ 你们班有多少人？ ②授業概要 「多少」と「几」の使い方に関する説明およびセンテンス作りの練習を行う。A2・D1・I1・K１・K２ ③予習（120分） 事前に配布したpdf教材を読んでおく。 ④復習（120分） 授業を振り返り、講義ノートを整理し、暗記する。
11	①授業テーマ 桌子上放着一架收音机 ②授業概要 動態助詞「着」の使い方に関する説明およびセンテンス作りの練習を行い、二回目の小テストを実施する。A2・D1・I1・K１・K２ ③予習（120分） 6回から10回までの授業内容をよく通読し、配布したpdf教材を読んでおく。 ④復習（120分） 授業を振り返り、講義ノートを整理し、暗記する。
12	①授業テーマ 田中去过中国 ②授業概要 「过」の使い方に関する説明およびセンテンス作りの練習を行う。A2・D1・I1・K１・K２ ③予習（120分） 事前に配布したpdf教材を読んでおく。 ④復習（120分） 授業を振り返り、講義ノートを整理し、暗記する。
13	①授業テーマ 你能当翻译 ②授業概要 能願動詞「能」の使い方や「能」と「会」の区別などに関する説明およびセンテンス作りの練習を行う。A2・D1・I1・K１・K２ ③予習（120分） 事前に配布したpdf教材を読んでおく。 ④復習（120分） 授業を振り返り、講義ノートを整理し、暗記する。。

	14	①授業テーマ 我可以进来吗？ ②授業概要 能願動詞「可以」、「应该」、「应当」、「应」、「该」などの使い方に関する説明およびセンテンス作りの練習を行う。A2・D1・I1・K１・K２ ③予習（120分） 事前に配布したpdf教材を読んでおく。 ④復習（120分） 授業を振り返り、講義ノートを整理し、暗記する。
	15	①授業テーマ 総括 ②授業概要：14回の授業の学びを総括する。A2・D1・I1・K１・K２ ③予習（120分） 講義ノートを整理し、確認しておく。 ④復習（120分） 講義ノートの全体を読み直し、センテンスを暗記し、期末試験に臨む。
関連科目	中国語Ⅰ(RMGT/SSCS 1751)、中国語Ⅱ(RMGT/SSCS 1752)、中国語Ⅲ(RMGT/SSCS　1753)	
教科書		
参考書・参考ＵＲＬ	矢野光司、劉力『中国語力』駿河台出版社	
連絡先・オフィスアワー	連絡先 開講時に告知します。 オフィスアワー 金曜日11：00～12：30　それ以外の時間については、メールにて相談したうえで対応します。	
研究比率		

戻る

Copyright (c) 2016 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.